

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191100025		
法人名	株式会社 ゆうあい		
事業所名	グループホーム ゆうあい		
所在地	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田 2273-7		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年3月28日	外部評価確定日	平成26年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的雰囲気の中で笑顔ある日々を過ごして頂けるよう広大な芝生の庭園の散策や動物と触れ合い、又畑には四季折々の花や野菜を植え、野菜は旬の食材を使用し、季節を感じながらおいしくバランスの摂れた食事を楽しんで頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな住宅街の中、緑豊かな広い敷地の中に、小規模多機能型事業所や認知症対応型通所介護事業所等と棟続きに造られており、それぞれの機能を活かした連携の下に、きめ細かいサービスが提供されている。職員は、地域密着型サービスの役割を認識し、社訓に「心の触れ合い笑顔の介護」を掲げ、明るく安心して暮らせる生活環境づくりを目指している。事業所の敷地内には、野菜畑があり、季節の野菜(大根・さつまいも・ほうれん草・ピース・ゴーヤ等)や花等を育て、食材に使用したり、居室の入り口に花を飾って心和む雰囲気作りをしている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼申送り後理念を全職員で唱和している。	「高齢者の尊厳を保ち、住み慣れた地域に安心して暮らせる介護サービスの提供」を理念に掲げ、管理者と職員は、介護業務の中で理念を共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣から果物を頂いたりボランティアに来てもらっています。	地域の方のボランティア(踊り・ハンドマッサージ・コーラス等)の訪問が毎月のようにあり、武蔵野音大の学生のコンサートには、地域の方にも案内をして一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談があれば、利用者の状況やケアの内容等説明をし、ホーム内の見学や案内を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施して記録もファイルしている。参加者からの意見を聞き、サービスの向上に向けて改善を心掛けている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能型事業所と合同で開催している、委員には、地区の区長・民生委員・青少年育成指導員・包括支援センター職員・家族等の出席を得、利用者やサービスの実際等報告している。委員より介護サービスの情報提供等有り、今後のサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	佐賀中部広域連合、神崎市・郡の担当者とは常に連携を保ち、その主催で行われる研修会などへの参加により関わりの機会を作っている。	町の地域包括支援センター職員の運営推進会議への出席があり、ホームの実情やケアサービスの取り組みを報告・相談して、協力関係を築いてサービスに繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成し、利用者の状態変化やケア内容の見直しをしながら身体拘束防止に努めている。日中は施錠せず、見守りの徹底を行い安全対策を工夫し開放的な環境作りを心掛けている。	職員は、身体拘束の弊害を認識しており、拘束の無い支援に取り組んでいる。日中は施錠はせず、見守りの徹底を行い、開放的な環境作りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、日々のケアや利用者への対応の際、虐待がないか確認を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度への理解が薄いことから勉強会を実施し全職員が制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書面に添って説明し疑問や質問等にも丁寧に対応し、納得された上で契約を頂く様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、いつでも何でも職員に話して頂けるような雰囲気作りにも努めている。また、玄関に「意見箱」を置き、面会に来られた家族からは希望・意見をお聞きしている。	家族の面会時には、気軽に声をかけ、要望や意見等を聞くようにしている。運営推進会議にも家族代表の出席があり、意思の疎通を図っている。また、玄関には意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見や提案を聞き、その後の全体会議	月1回職員会議が開催され、職員の意見や提案をまとめ、全体会議の中で発表して代表者や管理者に伝え、より良い介護サービスの運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議で仕事の問題点を話し合い、働きやすい方向に行くように改善出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会主催の研修には、必ず参加するように努めている。研修で学んだことをホームで活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、他の事業所の方の意見などを取り入れ、サービスの質の向上をさせている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や病院・看護師より情報収集を行い利用前に本人と訪問面接し、不安・要望などを尋ね話を伺い安心して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前から利用開始までの間も利用者や家族との関わりを持つ機会を設けて、利用後の不安の解消や要望があれば確実に対応できるよう周知、伝達など準備を行いケアプランに取り組むようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の意見心身の状況、生活環境などを伺い今、必要とされている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の色々な能力を発揮していただき、今までの経験や趣味得手なことも活かし一人一人が活躍できる機会を設け職員、利用者ともに支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、状況を報告し誕生会や行事への参加を呼び掛け、遠方に住み面会が困難な家族には、手紙や電話を行いともに支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が行きたい所(お寺・お墓・自宅等)は家族の協力を得ながら、家族や職員と出掛けしている。	日曜日を外出の日と決めており、利用者が希望されている処(お寺・お墓・自宅)へ出掛けたり、利用者全員で外食したりして馴染みの場所との関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士同じテーブルを使用して頂き、利用者が他の利用者の方の援助をされようとしているときには見守り必要に応じて支援し、また孤立しないように利用者同士の関係も把握しておく。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了する方は、殆ど長期入院の退所の為、退所後も職員が御見舞に行き退所後の状態を把握し必要に応じて今後の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、利用者との会話を大切にし、日々のケアの中から利用者の意向を汲み取るように努め利用者の気持ちに添える様努めている。また、意思の疎通が困難な場合には家族との会話や表情から汲み取り検討している。	職員は、利用者との日々の介護での関わりの中で、行動や表情から意向を汲み取るように努めている。また、意思の疎通が困難な場合には、家族の話から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけ利用開始前に利用者・家族から聞き取りを行いそれを参考にし、経験やできることを見極めて対応している。また、家族や知人の面会時には折に触れて話を聞いてみたりして少しずつ把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日常の過ごし方の観察と把握に努め、いつもと違う行動や様子が見受けられたら毎日の送りやミーティングにより報告・している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族とお話し、主治医よりアドバイスを聞き、職員会議・ミーティングを通じて意見を聞きながら介護計画を作成している。	本人や家族との日頃の関わりの中で、希望・意向を聞き、医師・ケアマネージャー・職員・看護師・家族等関係者の意見を集約して本人本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の記録は、ケース記録やバイタル表に記載し、職員がいつも見られる体制作りを行っている。また、介護計画の見直しにも記録が活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの現状を把握し、カンファレンスを行い家族へも相談・協力をお願いし取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアを施設に招き、舞踊・太鼓などの演奏をして頂き楽しい時間を過ごしていただくよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医や、利用者の希望される医療機関の受診を行っている。家族の付き添いが困難な場合は、看護師が付き添いで対応している。	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診は、原則家族の付き添いとなっている。協力医院への受診は、看護師の付き添いで実施しており、歯科受診は往診となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて利用者の変化や対応について介護、看護職員の連絡と報告相談を行って情報の共有化と適切な対応を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院されると、サマリー以外にも担当ナースへ日頃の状態を報告し安心して治療できるよう情報交換し、途中お見舞いに伺い、入院経過を聞き早期に退院できる様病院関係者と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応マニュアルや看取りに関する指針を基に利用者やご家族・主治医と相談しながら方針を決め共有し支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針を重要事項説明書にも明記し、入居契約時に双方で確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え「緊急時マニュアル」を作成し早期発見、対応が出来る様にし職員に対し応急手当や初期対応の訓練を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「火災発生時マニュアル」を作成し、また年2回併設事業所で防災訓練を実施している。	年2回、昼夜の火災を想定した消火・避難訓練等を消防署の指導の下に実施している。併設事業所との合同で、火元の設定を変えて実践している。	消火・避難訓練の実施時に地域住民と消防団の協力があるように働き掛けをされる事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉掛け、対応に心掛けている。	利用者の人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉掛けや会話がなされている。職員は、利用者を人生の先輩として接しており、姓で呼びかける等気遣いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ分かりやすい言葉遣いや、話し易い雰囲気作りを心掛けている。また、利用者の思いや希望を自由に表現したり決定できるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課は計画的に策定しているが、その日その日の利用者のペースに合わせる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れや着衣の乱れ、季節に合った衣類の調節に気を配ったり、身だしなみが保てるよう支援している。また、理容・美容室については、近隣の理容・美容室の方に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は 嗜好を開き、代替食の提案を行っている。利用者のその日の体調に合わせ、ご飯汁物の盛り付けを一緒に行ったり、食後の後片づけもお願いしている。	食事は、法人の給食部として専従の管理栄養士と調理員が配置され、副菜等の配膳まで実施しており、それぞれの事業所は、介護に専念出来る仕組みとなっている。。ホームは週1日調理をする日やおやつ作りを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量については記録し、栄養状態については、管理栄養士と相談し一人一人の状態に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの言葉掛けや義歯の洗浄磨き残しの介助、口腔ケアの介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人に合わせた排泄の支援を心掛けている。また排泄チェック表を活用しトイレでの排泄できるよう支援を行っている。また利用者の状態に合わせて布パンツ・紙パンツ・紙オムツ・パッドの使用を行っている。	利用者の排泄チェック表を活用し、1人ひとりの排泄パターンを把握して、言葉掛け等をしてトイレでの排泄を支援している。また、利用者の状態に合わせて布パンツ・紙パンツ・紙オムツ・パット等の使用等支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を把握し、個々に合わせた便秘予防にも取り組んでいる。また、日課のラジオ体操やリハビリ体操、水分補給にも心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調や希望等を配慮しながら入浴を行っている。拒否があった時は日にちを替えたり、気分転換を工夫して支援している。	基本的に週3回の入浴としているが、利用者の体調や希望等に配慮しながら入浴の支援を行っている。入浴を嫌がられる利用者には、無理強いをせず時間や曜日を变えて入浴を促したり、清拭や足浴等実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や希望に合わせて睡眠時間や午後からの昼寝等の支援を行い、寝具や室温等の調節により環境を整えるように努めている。また利用者の体調や状況に合わせて休息して頂けるようにソファークッションを備えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにより情報を収集し看護師が介護職員への指示を行っている。また利用者の体調に変化がある時は看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全職員が一人一人を理解しこれまでの生活歴や好み、季節的な物を取り入れ楽しめる様、毎日のレクの検討を行っている。また、利用者の身体状態によっては、洗濯物たたみ、季節の行事ポスター作り等協力を依頼して役割を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や郊外ドライブを計画し外出の機会を増やしている。また美容室での髪染めや自宅への帰宅・趣味の買物等の個別の希望による外出を美容室やご家族の協力も得ながら支援している。	協力病院が近隣にあり、診療に出掛けたり、美容室での髪染めに行ったり、かかりつけ医への診療に家族と行くなど行っている。また、利用者全員で花見や神社参拝等行き、外食等楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の所持金については、家族の了解のもと、一時預り金として保管し、その出金についてはご家族へ定期報告することとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に利用できる。また電話連絡を取りたい利用者には個別に対応している。手紙の支援においては、暑中見舞いははがきや年賀状を利用者と共に作成しご家族へ郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には毎月季節に合った飾りを手作りし、リビングから四季折々の花や野菜を眺めることが出来る。夏場はゴーヤのグリーンカーテンで日差しの調整をしている。	玄関を入ると広く長い廊下で、その両サイドには四季折々の絵や詩、利用者の行事でのスナップ写真等で飾ったり、居室入り口の利用者が生けた花などが、訪れた人を和やかにしてくれる。リビングは南面の陽ざしが入り、明るく、高床の畳の間を設え、ゆっくり過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロワーには、ソファやソファベットの設置し思い思いに過ごせる場所を提供している。共同スペース内に大型テレビにカラオケをセットし自由に好きな歌を歌えるようにしており利用者から喜んで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や毛布・タオルケット等、今まで使い続けた品物をできるだけ持参して頂くことで環境が少しでも軽減するよう努めている。	利用者の全居室が南面にあり、明るく陽ざしが入る。居室には、利用者の馴染みの家具・毛布・タオルケット等今迄使い慣れた物の持込みをしている。また、家族の写真や小物等で飾り、居心地良く過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、個人の能力に応じ車椅子・歩行器・シルバカーを使用することにより安全に移動できるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない